



各 位

CRESCO *

会社名 株式会社 クresco
 代表者名 代表取締役 社長執行役員 富永 宏
 (コード番号: 4674 東証プライム)
 問合せ先 IR・プランディング室長 目瀬 直之
 (TEL 03-5769-8058)

名古屋大学 高田 広章教授と対談
 日本の SDV を取り巻く環境と未来への可能性

株式会社クresco(本社: 東京都港区、代表取締役 社長執行役員: 富永 宏、以下当社)は、2024年2月、「次世代自動車関連技術研究の支援・促進」を目的に、名古屋大学に寄付を行いました。本寄附に対し、同大大学院情報学研究科から感謝状を拝受したことを契機として、7月3日、同研究科 附属組込みシステム研究センター長の高田 広章教授と当社社長富永による、「SDV(※)に関する研究」をテーマとする対談を開催いたしました。

※SDV (Software Defined Vehicle) : 車と外部との双方向通信機能を使って車を制御するソフトウェアが搭載された自動車。ソフトウェアを通して、販売後も機能を拡張したり、性能を高めたりできる。

対談では、経済産業省と国土交通省が公表している「モビリティDX戦略」の実現に貢献するために設立した「Open SDV Initiative」や「名古屋大学 大学院情報学研究科 附属組込みシステム研究センター クresco SDV 研究室(以下 SDV 研究室)」の取り組みの重要性と、研究の先にある自動車業界や、日本の未来への可能性を語り合いました。



左: クresco 代表取締役 社長執行役員 富永 宏

右: 名古屋大学 大学院情報学研究科 附属組込みシステム研究センター長 高田 広章氏

1. 対談の経緯

当社は、「次世代自動車関連技術研究の支援・促進」を目的として、2024年2月、名古屋大学に1億円を寄付。7月3日に同大大学院情報学研究科長 北栄輔研究科長を表敬訪問し、本取り組みに対する感謝状をいただきました。

同日、「SDVに関する研究」をテーマに、同研究科 附属組込みシステム研究センター長の高田教授と当社社長富永対談を実施いたしました。

(次頁へ)

2. 対談概要

(1) 実施概要

- ①日程：2024年7月3日（水）
- ②場所：名古屋大学キャンパス内

(2) 対談テーマ **※対談内容の詳細は項番4をご確認ください。**

「SDVを取り巻く環境と今後の展望」

- ①自動車・SDVに対する取り組み状況
- ②「Open SDV Initiative」と「SDV研究室」の設立背景
- ③「Open SDV Initiative」と「SDV研究室」の展望

3. 対談者紹介

名古屋大学 大学院情報学研究科 附属組込みシステム研究センター長 高田 広章氏



名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所 所長・教授。同大学 大学院 情報学研究科 教授・附属組込みシステム研究センター長を兼務。リアルタイムOS、リアルタイム性保証技術、車載組み込みシステム／ネットワーク技術、組み込みシステムのディペンダビリティ、ダイナミックマップ等の研究に従事。オープンソースのリアルタイムOS等を開発するTOPPERSプロジェクトを主宰。

株式会社クレスコ 代表取締役 社長執行役員 富永 宏

1990年クレスコ入社。06年ソリューション本部基盤システム事業部第三部長、09年ソリューション本部基盤ソリューション事業部長、13年取締役 ビジネスソリューション事業本部副本部長、17年取締役 常務執行役員 経営管理本部長 兼 経営戦略統括部長、21年取締役 専務執行役員 サービスコンピテンシー統括本部長 兼 技術研究所、品質管理本部管掌を歴任し、22年より現職。



4. 対談内容要約

(1) 自動車・SDVに対する取り組み状況

- ・(高田) SDVはここ2、3年、自動車業界で急速に注目が集まっている。自動車もデジタル化(DX)が重要になっているという背景から、経済産業省と国土交通省にて、2023年から「モビリティDX検討会」を開始し、座長を務めている。検討会の中でも、SDVは大きな議題のひとつとして議論されている。SDVに関する課題の中でも「ビーカルAPI(※)の標準化」はこれまで研究してきたOSの知見も生かせるため、「Open SDV Initiative」を設立し、ビーカルAPI策定活動を開始した。
※ビーカルAPI(Vehicle API)：自動車のシステムにアクセスするためのインターフェース。
- ・(富永) 自動車業界向けのシステム開発は、カーオーディオを中心とした車載機器向け組み込みソフトウェア開発の長年の実績がある。今では、ボディ系の制御、セキュリティ周り、セーフティ関係など、関連する他のシステム開発も担っている。開発だけでなく、経済産業省と国土交通省の「自動運転レベル4等先進モビリティサービス研究開発・社会実装プロジェクト(RoAD to the L4)」にもエンジニアが出向して研究を進めている。

(2) 「Open SDV Initiative」と「SDV研究室」の設立背景

- ・(富永) 自動車業界向けのシステム開発に長く携わる中で、自動車産業そのものへ貢献したい思いがある。かつ、2030年に向けた経営ビジョン「Cresco Group Ambition 2030」では、「“わくわくする未来”を創造」すると宣言している。名古屋大学様とはもともと共同研究等を通じたつながりがあり、高田教授とコミュニケーションをとる中で、企業として貢献する方法として、寄付を決定した。

(次頁へ)

- ・(高田) 自動車のソフトウェア化や、新興自動車メーカーの追い上げの中では、日本の自動車業界は決して安泰ではないという危機感をクレスコと共有していた。また、「ビークルAPIの標準化」は、「モビリティDX検討会」内でも議論はあったものの、ステークホルダーが多く、動きが遅い状況で、今の国際的な自動車業界の変化についていけるのかと考えていた。そこでクレスコからの寄付金を活用して「SDV研究室」を、ビークルAPIの仕様をスピードィーに作成し、自動車業界に提案する「Open SDV Initiative」を設立した。

(3) 「Open SDV Initiative」と「SDV研究室」の展望

- ・(高田) 「Open SDV Initiative」に、業界問わず、多くの企業が参画してほしい。SDVは、スマートフォンのようにアプリケーションを搭載することで車の価値が高めることができると考えているため、例えばスマートフォン向けのアプリケーション開発企業に参画してもらい、「車がスマホ化したらどんなサービスが広がるか」を議論したい。40~50社の参画が実現すれば、影響力の大きな活動となりえる。
- ・(富永) 当社の事業エリアは広く、自動車以外の業界向けの開発実績が多数あるため、自動車業界向けの開発経験の有無を問わず、SDV研究室の活動に参加できるように働きかけている。今後、SDV研究室に参画する技術者の層を広く、人数も増やしていきたい。
- ・(高田) 自動車業界の変化に追いつくためにはスピードィーな活動が必要である。そのため、「Open SDV Initiative」では、成果物が開発途上であっても世の中に発表し、短い時間で成果を出すことを重視したい。どこかの企業や団体が成果物を模倣してより良いものを開発することを歓迎したく、参画していくなくても情報を閲覧できるオープンな活動としていく。
また、SDVのような、ソフトウェアを通して価値を高める考え方は、車にとどまらず、モビリティ全体、そして社会全体にも広がる可能性がある。「Open SDV Initiative」の参画者は、このような将来が実現した時にも活躍できるスキルを身に着けてもらいたい。
- ・(富永) 今後も高田教授と連携しながら、国が進めるモビリティDXに対して、企業として機動的に、そして柔軟に動いていきたい。また、「SDV研究室」での活動で得た知見や技術は、自動車業界だけでなく、別の事業に展開できる分野もあると考えている。幅広く学び、それを社内に共有することで、事業の拡大だけでなく、技術者の育成や、社会への貢献につなげていきたい。

以上

【本リリースに関するお問い合わせ】
株式会社クレスコ
IR・ブランディング室 目瀬
TEL:03-5769-8058
E-mail: pr@cresco.co.jp